

お知らせ

10月14日(日)、市民プラザで、がん検診に関する講演会を開催します。

今回のテーマは、乳がん検診と胃がん検診です。胃内視鏡検診が本当に2年に1回の検診でいいのか、詳しく説明します。

講演会出席ご希望の方は、9月26日から新潟市コールセンター（025-243-4894）で受付を開始します。

日時 平成30年10月14日(日)13時30分～16時10分

会場 新潟市民プラザ（NEXT21ビル6階ホール）

中央区西堀通6-866

講演 1. 病を授かって4年。キャンサーギフトという生き方

伊勢 みずほ（フリーアナウンサー）

2. 乳がんの発見時期で差が出る治療成績～触って、知って、自分の体を大切に～

坂田 英子（新潟市民病院）

3. 新潟市の胃内視鏡検診を知る・・・なぜ2年に1回に変わるのか・・・

濱島 ちさと（帝京大学）

10月は乳がん月間です。現在、11人に1人が乳がんになると言われ、40歳から50歳代の働く世代の女性では、乳がんが増加しています。2年に1回の乳がん検診が、早期発見につながり女性の命を救います。今回は、伊勢みずほさんをお招きし、乳がん治療と仕事について、お話しいたします。

また、新潟市民に多い胃がんですが、新潟市の胃内視鏡検診の体制が、平成31年度から50歳以上の方は2年に1回偶数年齢に変わります。その理由について、新潟市をはじめ、全国で胃内視鏡検診の研究をされており、国の指針作成にも関わっている濱島先生が、わかりやすく話ししていただきます。

ホームページ開設

研究班のホームページを開設しました。ホームページでは、研究の説明のDVDや研究案内のリーフレットを見ることができます。ご意見・ご質問がありましたらお寄せください。

また、「アイリス・レター」のバックナンバーもPDFファイルで公開予定です。

研究や検診についてのご意見・お問い合わせはメール(未定)でも受け付けています。

個別リスク研究ホームページ

<http://www.j-sasg.jp/>



キャラクター「アイリスちゃん」紹介

アイリス（あやめ）の花言葉は「よい便り」「メッセージ」です。

「アイリスちゃん」は、研究協力をお願いしている方々に、健康に役立つ情報をお届けします。

個別リスク検診研究

ニュースレター



「アイリスレター」は、個別リスクの内視鏡検診研究にご協力いただいた方にお送りしているニュースレターです。

見出し

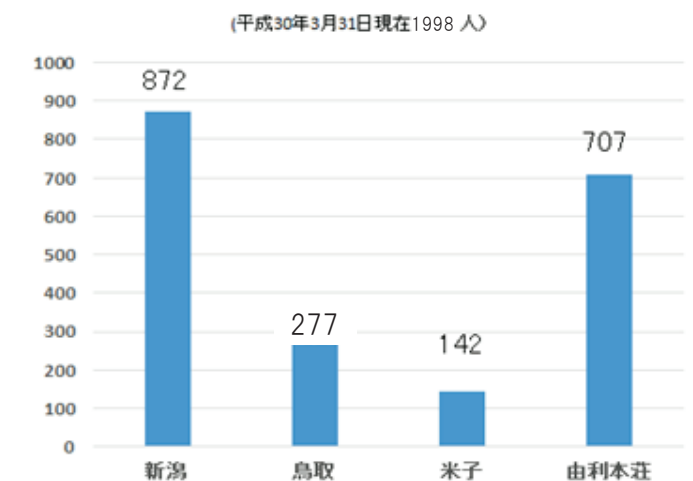
- *平成29年度研究協力者報告1
- *新潟市の胃内視鏡検診は2年に1回に2
- *新潟市胃内視鏡検診の紹介3
- *お知らせ4

平成29年度研究協力者報告

平成29年4月から始まったAMED研究には、新潟市をはじめ、鳥取県鳥取市、米子市、秋田県由利本荘市の4市がエントリーしました。1年間の総リクルート数は1,998人、なかでも新潟市の研究協力者は800人を超え、4市の中では最大でした。

研究協力者の総数の最終予定数は15,000人であることから、平成30年度も引き続き、新潟市では研究協力者のリクルートを行っています。

図 平成29年度研究参加者数の比較



発行日 平成30年9月1日

発行元 胃内視鏡検診
研究事務局

URL <http://www.j-sasg.jp/>

本研究は、日本医療研究開発機構研究費による「個別リスクに基づく適切な胃がん検診提供体制構築に関する研究」(課題番号:16817317)

研究班(研究代表者 深尾彰)の一部として行っています。

現在、新潟市の胃内視鏡検診は50歳以上であれば、毎年受診することが可能です。しかし、国の方針では、胃内視鏡検診は2年に1回の受診となっています。

新潟市でも、平成31年度からは、胃内視鏡検診は2年に1回に変更されます。年度内に偶数年齢となる方のみが受診可能で、奇数年齢の方は受診できません。

平成29年度に研究協力の同意を頂いた方の中には、同年が奇数年齢の方もいました。そこで、今後の研究検診の受診方法については、個別にご案内をしたところです。

研究開始当初は、新潟市の方針変更は未確定であったことから、当初の案内とは受診方法についてご面倒おかけしますが、個別通知をご確認いただきますよう、お願いします。また、不明な点などありましたら、いつでも胃内視鏡検診研究事務局にご連絡ください。

2年前受診の発見がんの生存率は、1年前受診と同じ！

新潟市の胃内視鏡検診で発見された胃がんの過去の受診歴を調べてみました。すると、今まで一度も検診を受診していない人では、進行がんの割合が大きかったです。さらに、1年前、2年前、3年前に胃内視鏡検診の受診歴があるかどうかを調べると、3年前の受診では進行がんの割合は高くなりますが、1年前と2年前に受診歴がある場合の進行がんの割合は、ほとんど変わらないことがわかりました。さらに、生存率を比べてみると、1年前と2年前の受診歴がある場合の発見がんではほぼ同等でした。しかし、3

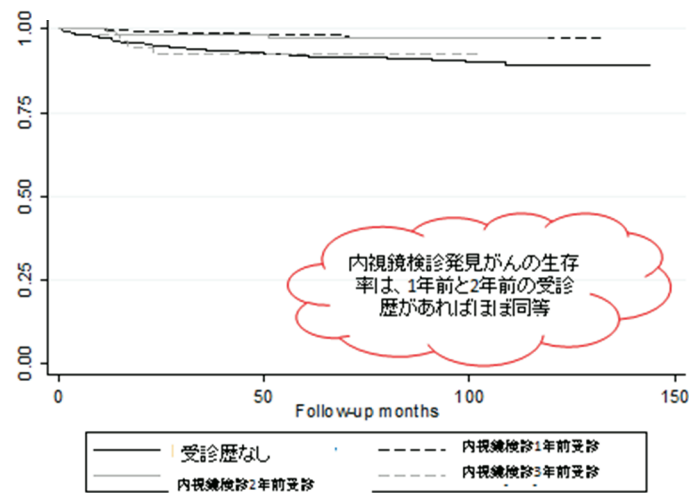
これまで、毎年受けられたはずの胃内視鏡検診が2年に1回になることで、不安に思われる方もいるかもしれません。胃内視鏡検診は、これまで行われてきたレントゲン検診に比べ、精度も高く、より早期のがんを見つけることが可能です。しかし、早期がんのなかには、命を落とす原因にはならない、非常にゆっくり育つがんも含まれています。これは、「過剰診断」といわれるものです。こうしたがんをどんどん見つけることが、命を救うことにはならず、むしろ余計な検査や治療を増やすことになり、その結果、余計なお金がかかるばかりではなく、却って心配の種を増やすことにもなります。

本当に必要な人が、必要なだけ検診を受けることで、個人の利益が最大化し理想的な受診になります。

年前の受診や受診歴がない場合は、生存率は低くなりました。

この結果、胃内視鏡検診の検診間隔を少なくとも1年から2年までに延ばすことができるということになります。

図 受診歴別胃内視鏡発見がんの生存率の比較



AMED 研究では、新潟市、鳥取市、米子市(鳥取県)、由利本荘市(秋田県)、金沢市(石川県)、前橋市(群馬県)にご協力頂いています。

新潟市で6月に開催された第25回日本消化器がん検診学会で紹介された新潟市の胃内視鏡検診について、紹介します。

新潟市は、全国に先駆け、平成15年から胃内視鏡検診を開始しました。当時は、厚生労働省は胃がん検診としてX線検診のみを推奨していましたが、医師会の先生方の熱意もあり、導入が実現しました。

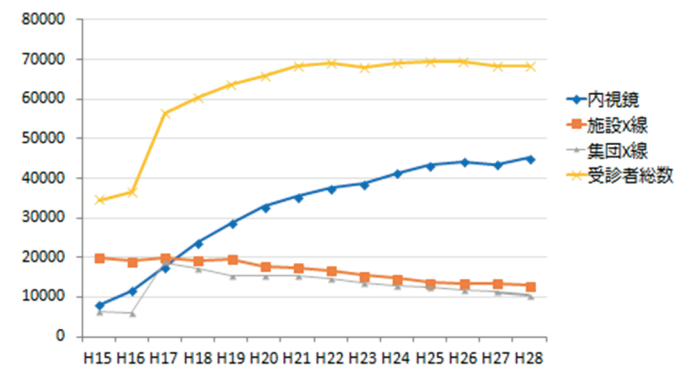
胃内視鏡検診は、診療所をはじめとする医療機関で行われています。対象年齢は、40歳、45歳、50歳以上です。これまでは毎年検診を行ってきましたが、平成31年度からは2年に1度の隔年検診となります。

新潟市では、導入以前からX線検診を行ってききましたので、現在でも、市民はX線と内視鏡のいずれかを選択することが可能です。新潟市では、X線と合わせて約7万人が胃がん検診を受診していますが、このうち65%(約4万5千人)が内視鏡検診を受けています。平成27年度の発見胃がん数は378人、このうち80%以上が早期がんです。胃がん発見率は0.8%と高水準を維持しています。

新潟市の胃内視鏡検診のアピールポイントは、質の高いダブルチェックシステムと世界水準の研究です。医療機関で検査された内視鏡の画像はすべて専門医がチェックすることにより見落としを減らしています。また、新潟市の検診データを使った研究は、国際的な学術誌にも多く発表され、特に韓国や台湾などアジアの国々から注目されています。



胃がん検診受診数の推移



胃内視鏡検診によるがん発見率

